



短期留学参加者体験談

カリフォルニア大学デイビス校（アメリカ）

《1年 基礎課程 2025年度参加》

今回の短期留学は、私にとって初めてのアメリカ滞在であり、最も強く印象に残ったのは、社会の多様性と自由度の高さであった。学校で現地の学生と直接交流する機会は限られていたものの、観光や日常生活を通じて、多様な人々の姿を間近で観察することができた。特に日本では、周囲の視線を意識して行動する傾向が強い一方で、アメリカでは他者への関心が相対的に低く、各々が自分らしい表現を尊重されていると感じた。日本ではまだ日常的に目にすることが少ない多種多様な価値観の受容を実感する機会となった。

授業はレベルごとにクラスが分かれていて、自分のクラスはセクション10で帰国子女などかなり流暢に英語を話せる生徒が多かったため、最初は緊張したが大変刺激になった。日本人で固まりがちと聞いていたが、クラスに中国人の生徒が三人いたため、休み時間も英語で交流することができた。インタビュー課題はかなりハードルが高かったが、授業で現地人と交流する機会がない分、現地の生徒たちに直接話しかけて自分の言葉で英語を話すという大変貴重な機会となった。リスニングの授業は、先生が音声学をしっかりと学習されている方だったので、英単語一つ一つの発音やアクセントなどを学問的にしっかりと学習することができ、新たな視点を得ることができた。

《2年 国際交流学科グローバル社会コース 2025年度参加》

今回の留学で最も印象的だったのは授業内の課題で現地のアメリカ人にインタビューするというものがあったことです。私自身スピーキング力養成のために今回の留学に参加したのですが、インタビューで見知らぬ人に英語で質問するという体験は授業内で発表をしたり、ディスカッションしたりするのは違った緊張感がありました。しかし、インタビューを通して感じたのは台本や大まかな議論の流れがわかっている授業内のアクティビティと違ってアドリブで話さなくてはならないので、より実用的な英語力を身につけるのにうってつけだと思いました。同時に、インタビューをしながら異文化交流を楽しむことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

《3年 英語文化コミュニケーション学科 2024年度参加》

授業は本当に楽しかったです。元々渡航前に前年の参加者からインタビューすることが多いと聞いていたので怖かったのですが、いきなりインタビューさせられるのではなく、アメリカの文化やアメリカ人の考え方などを授業で教えてもらい、自分の興味のあるトピックについてインタビューをすることが多かったです。インタビューを断られてしまうこともありましたが、あまり落ち込まないで積極的に話しかけることができました。グループワークが多かった（先生がグループを作ってくれる）ので私のクラスは聖心生が私だけでしたが自然と友達ができ、テストの結果によってクラスが振り分けられていたと思うので、苦しくない程度に同じくらいの英語力の人たちと英語で会話をすることができました。

《1年 基礎課程 2024年度参加》

今回が初めての海外経験だったのですが楽しく過ごすことができました。英語の発音・会話表現を学ぶ授業が印象に残っています。現地の人を使う会話表現を学ぶ授業であったり、英語の発音に焦点を当てた授業だったり、面白いものが多かったです。これから留学をする方には、留学先大学内にこもりすぎず色々な場所にお出かけしてみるのをお勧めします。デビスの方々は優しく英語を聞いてくれるので積極的に話したほうが自分の力になると思います。

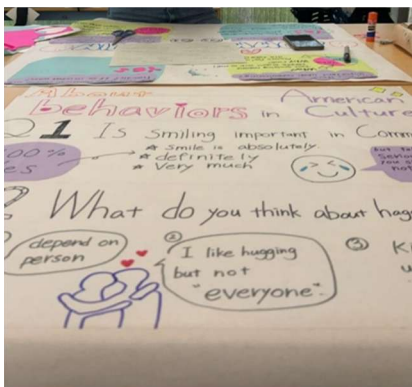
《4年 人間関係学科 2023年度参加》

午後からの授業であったため、午前はゆっくりと過ごす事ができました。授業は細かくクラス分けがされており、適切なクラスに振り分けられたと考えます。毎週、発表やレポートの課題があり、街頭インタビューをするなどアクティブな課題も多くありました。夜中まで課題をすることもあったが、寮生活であったので友達と一緒に勉強をすることもできた点が良かったです。また、東京だけでなく大阪の大学の生徒などもいて、いろんな友人と出会う事ができました。台湾人も同じプログラムに参加しており、国を超えて仲良くなることやお互いの文化を知る事ができました。授業ではグループで話し合う時間やペアワークが多く、英語を積極的に使う場面が多くありました。

《2年 国際交流学科グローバル社会コース 2023年度参加》

研修校の講義は、文法や異文化を知る授業が多く、実際にダウンタウンに出て、英語でインタビューをすることもありました。また、ポスター作成やプレゼンテーションをする機会が多く、渡航する前よりも自分の英語力に自信が持てたと思います。

私は、大学が契約するジムを契約したため、ジムに通っていましたが、そこで現地の学生と交流し、現地の学生の友人が出来たことがとても嬉しかったです。また、授業で現地の学生と会話する機会があり、そこで現地の学生と交流を深めることが出来ました。平日は、午前中が休みだったので、午前中はダウンタウンで買い物をしたりゆっくり過ごすことができます。夜は、ジムに行ってみんなで体を動かしたりした。週末は、学生証を使うと街のバスが無料なので、サクラメントやウッドランドに行ったり、タクシーを使ってサンフランシスコに行ったり、野球観戦をしました。School trip で二泊三日のロサンゼルス旅行に行きました。1ヶ月の研修は本当にあつという間です。アメリカでの生活は一日一日が濃く、とても充実した生活を送ることが出来ます。自分の行動次第で現地の学生との交流もできるので、この研修は本当におすすめです。私は長期留学を視野に今回のプログラムに参加していたので、同じような考えの方もぜひおすすめします！



(※写真はすべて 2023 年度参加者提供)

《1年 基礎課程 2022年度参加（オンライン）》

初めは、分からないことだらけで、不安の方が大きかったです。授業や課題にも慣れるまでには、2週間くらいはかかりました。でも、慣れてきた後の2週間は、本当にあっという間でした。授業はとても充実している内容だったと思います。毎週、自分でテーマに関連する記事を見つけ、要約と自分の意見、そして、ディスカッションのための質問を書きました。ディスカッションも完全に学生主導で、かなり深い内容を話し合えたと思います。授業の半分は交流していたといっても過言ではないほど、沢山交流しました。私のクラスは12人で、ちょうどよい人数だったと感じます。うまく話せないときや、話しづらい内容もありましたが、お互い尊重し合いながらも、それぞれの意見や経験を共有していました。

《3年 英語文化コミュニケーション学科 2021年度参加（オンライン）》

参加する前は「オンラインだし意味あるのかな」や「たった一ヶ月だし」「もう3年生だし」と考えていました。ですが、オンラインだからこそ現地学生と積極的に連絡をとり、短期間だからこそ集中して取り組むことができました。短期間でも自分自身の頑張り次第で素敵な経験ができると思います。『英語が話せるようになりたい』、『現地の学生と話してみたい』という自分の心の声を大切に挑戦してほしいと思います！

《3年 心理学科 2021年度参加（オンライン）》

授業内容が非常に興味深く、SDGsに関して私達の生活に馴染みやすいトピックについての学びが印象的でした。全体を通して、ディスカッション能力や英語の記事を読む力、サマリー力を養う事が出来ました。他のクラスメイトとブレイクアウトルームで意見交換をする機会も非常に多かった為、皆の意見が非常に刺激的で、貴重な時間でした。

《2年 心理学科 2019年度参加》

今回の留学は、私にとってとても大きな経験になり、毎日の留学生活が新鮮でした。学業面では、グループワークやディスカッションがすべての授業にあり、私は自分の意見を共有することが苦手だったため、はじめは戸惑うこともありましたが、しかし、毎日それを行っていくうちに慣れ、最後には抵抗がなくなっていました。苦手なことでも恐れずに続けていけば、慣れていくことができるということを知りました。

《2年 英語英文学科 2019年度参加》

ホームステイ先のホストマザーとホストファザーがとても優しく、土日は湖やサクラメントという街に連れてってくれました。学校から帰ると、美味しいご飯がいつもあり、英語もゆっくりと話してくれ、私も英語を理解することが出来ました。よく使うスラングや文法を教えてください、勉強になりました。また、ホストファミリーとアメリカの歴史や政治について話をする時間はとても楽しく、英語を学ぶだけでなく、アメリカの文化についても学ぶことが出来ました。



(※写真はすべて 2019 年度参加者提供)



サセックス大学 (イギリス)

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2025 年度参加》

今回の短期留学では、英語の基礎を実践するだけでなく、異文化に触れる貴重な機会となりました。授業を通して自分の英語の苦手な部分を見直すことができ、今後の学習方法を考える大きなきっかけになったと感じています。また、授業ではイギリス文化について学ぶことができました。先生方の英語のスピードが速く、聞き取れないことや内容を理解するのに時間がかかることも多かったです。しかし、その分集中して聞こうとする姿勢が身に付き、わからない点をそのままにするのではなく、先生やクラスメイトに質問をするように心掛けることができました。授業の中で学んだスモールトークは電車で実際に体験することができ、文化の違いを肌で感じることができました。大変なことも多かったです。自分の弱点を知る良い機会になりました。

《2年 英語文化コミュニケーション学科 2025 年度参加》

初めての海外渡航だったため、周りの環境全てが刺激的でした。わからないことを英語で頑張って質問し理解してもらえた時はすごく嬉しいけれど、上手く伝わらないこともあり、自分の語学力とコミュニケーション力が試される時がたくさんありました。現地に住んでいる人に自分から話しかけたり、伝わるかわからなくてもとりあえず話してみるなど、今まではあまり得意ではない事も克服できたように感じています。

休みの日には様々なところに出かけ、イギリスの文化を感じたり有名な自然を観光したりと楽しむことができました。初めは電車の切符の取り方からわからず苦戦しましたが、駅員さんに聞いたり小さな事ですが乗り越えられると嬉しかったです。優しい人がたくさんいて、周りの人に助けられたこともたくさんありました。行動力が大事だと感じました。

1ヶ月の間、英語に囲まれた生活をするると苦手意識も薄れて、より身近に英語を感じられるようになりました。自分の語学力をもっと上げていきたいと思える良い機会だったと思います。

《3年 心理学科 2024年度参加》

一生懸命伝えようとしている思いは伝わり、相手もそれを汲み取って理解しようとしてくれます。私は仲良くなった友達が英語のレベルが高く、それが良い刺激となって他国の友達を作ることが出来ました。友達を頼りながら学ぶのもひとつの手なのではないかと思いますが、友達に頼りっぱなしなのは自分のためにならないため、自分自身も話したいという意志を出し、個人での努力が必要だと実感しました。

《2年 英語文化コミュニケーション学科 2024年度参加》

私は今回の留学が初めてだったのですが、見るものすべてがとても新しく新鮮な気持ちでした。食文化、気候、町の雰囲気、そして現地の人々の態度など、自分の国とは大きく異なりました。イギリスでは自由な物事が多い分、自分で自分のことをしっかり管理しなければならなかったです。現地で知り合った友人もとても自立している人ばかりで自立することを学びました。また、現地の方々の態度について考えさせられました。以前は、日本の店員の態度が一貫して礼儀正しく、いわゆる“営業スマイル”で接客することが素晴らしいことだと考えていました。しかし、イギリスでは礼儀正しいとは言えないものの、嬉しい言葉をかけてくれたり日常的な会話で交流してくれたり、自然な接客が心地よかったです。提供する側も、される側もストレスのない文化だと感じました。

《2年 英語文化コミュニケーション学科 2023年度参加》

コロナ禍を経て久しぶりに海外に渡航したこともありとても新鮮な気持ちでした。日本では経験できないような体験をたくさんすることができました。特に現地のお店では店員さんが私の服や髪色について褒めてくれたりフランクに話しかけてくださりして日本との文化の違いについて体感できたことが印象的でした。午前中の授業では英文法の基礎を学ぶことができました。先生がKahoot!を使って問題を出してくれたため楽しく復習することができました。また、大教室に集まってサセックス大学に来ている留学生とともに王冠やカメラのテクノロジーや歴史について学びました。午後の授業ではイギリスの文化について主に学びました。2~3人のグループでプレゼンテーションを2回おこないました。1回目のテーマはイギリスのイベントについて、2回目は1990年代など割り当てられた年代に関して音楽や映画、政治などについて発表しました。

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2023年度参加》

アジア圏を中心とする各国の留学生と共にオプションツアーやアクティビティに参加し交流の場に身を置いた中で、英語での会話に触れたり、自分なりに会話を広げたりできたことが印象に残っています。語学力にあまり自信がなくても、相手の話に耳を傾けることで理解できるようになり、英語へのモチベーションを徐々に高めることができました。簡単な日常会話ができる程度の段階で短期留学に参加し、最初は戸惑うこともありましたが、授業内で意見を発言する場もあったため、少しずつ英語での発言に慣れることができました。分からない点や伝えたいことを英語で話し、自分自身で解決する姿勢が以前よりも身についたと感じます。また、普段学習する英語とは異なり、多くのイギリス英語に触れたため、新鮮な気持ちで学ぶことができました。現地の方や外国人留学生との会話の中で英語へのモチベーションも得られるため、語学力向上を目指す方にお勧めします。海外での生活を体験し、異文化に触れられるため、とても貴重な体験ができます。他の留学生と参加するオプション

ナルツアーなど、授業時間外でも実際に英語に触れる機会が用意され、短い期間でも、自分の行動次第で有意義な時間を過ごせると感じました。

《1年 基礎課程 2023年度参加》

今回、短期留学に参加したことで現地の雰囲気を大いに感じられる機会となった。印象的なのは現地の人々の優しさだ。ロンドンに行った際、帰りの電車を間違え困っていたところ近くにいた男性が助けてくださったことや、サッカー観戦の際、観戦しやすい席へ交換してくださるなど現地の人々の優しさにより助けられる機会が多かった。日本とは違う人と人との距離を感じる良い機会となった。学んだことは英語の訛りだ。日本にいる際は感じる事がなかった英語の訛りを感じ、英語を聞き取ることの難しさを改めて体感した。そして、自分で動くことの大切さを感じた。観光に行く際も自分自身で計画し動くことが重要であり、動かなければ学びが出来ないのだと気づいた。これは留学以外の面でも重要でありこれからの大学生活にも必要になると考える。



(※写真はすべて2023年度参加者提供)

《2年 教育学科教育学専攻 2019年度参加》

先生方や街のお店の店員さん、タクシーの運転手さんなど色々な方々から、「イギリス人の英語を話そうとするのではなく、あなたの英語を怖がらずに話してごらん」と言われて、うまく言えなくてもいいからとりあえず相手に伝える努力をしようと頑張りました。ブライトンには今回初めて行ったのですが、とても素敵な海辺の街という印象的でした。ロンドンよりもかなり郊外にあるため、物価が安く、人もゆったりとしています。治安も比較的よくて暮らしやすそうだなと思いました。

《2年 国際交流学科 2019年度参加》

今回の留学で印象的だったことは、大学が自然に囲まれていたこともあり、ウサギやリスなどの野生動物が見られたことです。また、大学の近くにあるブライトンという街はLGBTQを推奨している場所ので、私たちがたまたま初日に行った日が記念日だったので、街に虹色の横断幕がかかっていたり、虹色のコスチュームを着ていた人が多くいたりということも印象的でした。午前中の授業は文法についてテキストを使って勉強し、グループワークで更に深めていくという授業でした。また毎週水曜日に大学の講義を聞きに行き、事前に出された質問に答えるという授業もありました。日本の英語の授業とは違い、話すスピードが早く、聞き取ることが大変でしたが、とても良い経験になったと思います。午後の授業では、イギリスの文化を学ぶ授業で食やファッション、お祭

りについて学びました。イギリスの食事や世界のお祭りについてプレゼンテーションをする機会もありました。また、ゲームを使って勉強する機会も多くあり、楽しく学ぶことが出来ました。

《2年 国際交流学科 2019年度参加》

今まで曖昧だった文法をみっちり授業で再確認できたことが大変良かったです。週に1度ある留学生全体の授業では、イギリスの文学について理解を深めることができました。

授業以外に、現地の大学生が主体となり、留学生との親交を深めるためのアクティビティやイベントなどが週に2回ほど開かれていました。どのイベントも留学生が気軽に参加しやすいものばかりでした。毎週木曜日の昼休みにはティータイムがあり、その時間に他大学の学生と話す機会が多くありました。研修校の先生はいつも私たちのことを気にかけてくださり、授業で分からないことがあったとしても聞きやすい優しい方でした。サポートも手厚く、留学における不安は解消されました。

マギル大学（カナダ）

《3年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2025年度参加》

今回の短期留学では、マギル大学での授業や現地学生との交流を通じて、多くの学びがありました。具体的に、授業では他大学の生徒と共に「言語政策とケベックのアイデンティティ」について議論し発表を行い、ケベックにおけるフランス語の重要性を理解すると同時に、言語と文化の結びつきの強さを実感しました。ディスカッション形式が多く、常に自分の意見を求められる環境でした。最初は自身の語彙力不足から発言に苦労しましたが、留学期間中の3週間毎日積極的に参加することで表現力が向上したと考えています。日本の授業では得られない実践的な学びとなり、思考の幅も広がったと感じています。

また、旧市街やノートルダム大聖堂を訪れ、歴史的建物と近代的な都市空間が共存する様子から、多文化都市モントリオールの特徴を肌で感じました。授業外では、現地のカフェやレストランで実際に人々と交流し、教科書では学べない多様性への理解を深めることができたことが特に印象的でした。

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2025年度参加》

今回の短期留学では、授業やアクティビティ、そして日常生活を通してカナダの歴史や文化について様々なことを学び、感じる事ができた。例えば、町の標識や看板、レストランのメニューなどがすべてフランス語で書かれていたことだ。カナダでフランス語が使われているというイメージがなかったため非常に驚いた。留学中に受けた授業で、カナダでは東部では主にフランス語が話され、西部では英語が主に使われていること、またケベックで話されているフランス語はフランス本国のフランス語と比べて発音などに違いがあることを学んだ。これらの経験を通じて、私たちは自分の持っている知識だけで、無意識のうちに他国やその国の人々を一般化してしまっているのだと実感した。「理解している」と思っている、それはあくまでも一部にすぎず、異なる文化すべてを理解するのは簡単なことではない。しかし、完全には理解できなくても、「知ろうとする姿勢」を持つことがなによりも大切であり、そのためには異なる文化をもつ人々との対話が重要であると感じた。今回の留学でこうした気づきや学びを得たからこそ、それを実現する手段として英語の重要性を改めて実感した。短

期留学を通して、日本とは全く異なるカナダの文化に触れることができ、自身の視野が広がったと感じている。

《2年 日本語日本文学科 2024年度参加》

平日午前中2時間は座学でした。内容は主にリスニングとスピーキングで、それに加えて読解や作文を行いました。さらに、週1回ほど午後に発音の授業が2時間ほどありました。毎日の授業に加えて、日常会話や先生の指示も英語のため、3週間という短い期間でも、多くのインプットを得ることができました。また、リスニングは、実力より少し高いレベルの教材を扱い、聞き取りにくい部分を速度を落として繰り返し聞くことで、リスニング能力の向上を図ることができました。作文のタスク中は、先生が常時見回っていらっしゃる間違いを指摘していただけるので、とても助かりました。授業の題材は、カナダのチップ文化や食品、動物、歴史などでした。特に、カナダの歴史に関する授業が興味深かったです。カナダは原住民のいる大陸にヨーロッパ人が移住して支配していたという歴史があるため、歴史や文化の流入が盛んなため、日本には気が付けなかった発見が多く、大変興味深かったです。日本にいる際の常識や固定観念が覆される点も含め、大変貴重な経験をすることができました。

《4年 心理学科 2024年度参加》

印象的だったことは移民の文化です。留学に行く前は、日本と同様にカナダ人が多く暮らしており、英語が飛び交う街並みを想像していました。実際に現地に着くとカナダ人だけではなくフランス・アジア・インドなど様々な国の人が共に暮らしているグローバルな文化に驚きました。街を歩いても様々な言語が聞こえたり、飲食店のメニュー表では英語とフランス語と選べたりなど日本では見ない光景が沢山ありました。学んだことは、英語はコミュニケーションツールであるという事です。今まで英語は、学校で学ぶ「科目」というイメージが強かったのですが、実際に留学先で英語を使って話していくうちに自分の中での英語のイメージに変化がありました。また、英語をもっと使えるようになりたいという思い、勉強意欲が高まりました。

《2年 史学科 2023年度参加》

授業は、カナダやモントリオールについて紹介したテキストにそって行われ、ディスカッションがメインで、先生が用意した質問に隣の席同士で話し合う場合もあれば、ランダムに振り分けられたグループで話し合うときもありました。最後の週になるにつれ、トピックが先住民の人や移民の人に焦点を当てたものになりました。実際に、それぞれ違ったバックグラウンドを持つ3人のゲストスピーカーが話をしに来てくださり、難しい内容でしたが心に残るお話ばかりでした。課題は、個人で行うものがほとんどでした。期限内にモントリオールの生活や週末の過ごし方、英語力や自信の向上についてなどを口頭で録音するものです。少し時間はかかりますが、負担にはまったくありませんでした。私のクラスでは、日本・中国・メキシコの3カ国から集まっていたので、それぞれの文化について紹介し合う機会が多く異文化交流が盛んでした。先生が色々なクラスメートと交流するよう考えてくださり、毎回グループのメンバーはランダムでした。午後のアクティビティはカンパセーションパート

ナー（CP）1人につきメンバーがランダムで選ばれた、モントリオールの色々な所に一緒にでかけました。

《2年 教育学科初等教育学専攻 2023年度参加》

今回の短期留学で印象的だったことは3つあります。

まず1つ目は、今回の短期留学先であったカナダのモントリオールでは、英語とフランス語の両方、もしくはそれ以上の言語を話せる人が非常に多いということです。モントリオールにおける第一言語はフランス語であるため、街の看板やお店のメニューなどは全てフランス語でした。しかし、もちろんカナダの公共語は英語であるため、英語も必須となってきます。私は、フランス語が全く分からないので、お店での注文や街中の人に聞く際には英語で話しかけましたが、全ての方に快く対応して頂きました。そして、バイリンガルの人が多いカナダで英語もままならない自分に危機感を覚えました。

2つ目は、1つ目と関連していますが、人それぞれ異なるバックグラウンドを持っているということです。日本に住んでいる人の多くは、日本で生まれ、日本で育っている人が大半だと思います。しかし、カナダに住んでいる人の中には違う国で生まれ育った人も多く、それぞれ異なる文化や価値観の人々が共存している国だという印象を受けました。モニター（現地の学生さん）も、モントリオールで生まれた人はいなく、それぞれ違った国や地域から来ていました。そのため、話していると色々な文化や価値観、考え方を知ることができ、とても勉強になりました。

3つ目は、自分の英語力の低さに対する危機感が生まれたことです。これはマイナスに捉えるべきですが、自分自身を客観的に見るという意味でプラスにも捉えられるかなと思います。3週間共同生活をしていく中で現地の学生との仲も深まり、もっと話したいと思うようになりました。しかし、自分の言いたいことが言えなかったり、つい英語を日本語に変換して考えてしまったりと、言葉のキャッチボールがうまくいかないことが多々ありました。現地の学生は、毎回親切に教えてくれましたが、もっと英語で言葉を表現できるようになりたいです。



（※写真はすべて2023年度参加者提供）

《3年 英語文化コミュニケーション学科 2022年度参加》

マギル大学のEISPのプログラム自体は日本人のみの参加ですが、英語力の向上に適していると感じました。寮内などの生活面をサポートして下さる方々や、午前中の授業の先生方、午後の周辺を案内して下さるモニターの方全員が現地の方で、常に英語のコミュニケーションを取ることが出来ます。また午後の周辺観光は少人数のグループに分かれており、各グループそれぞれにモニターの方がついて下さります。年齢も先生と比較すると近いので、日常的な英会話もここで学びかつ海外で友人

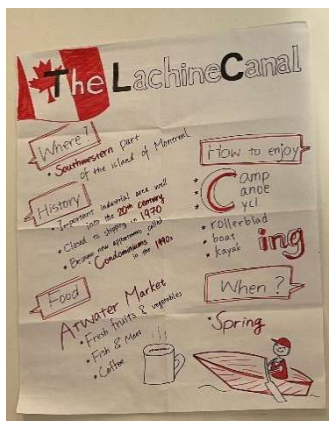
ができたような気持ちでした。日本人同士でいる間も極力英語を話したり、英語でゲームをしたり、知らない間に語彙が増えていくのが印象的でした。

授業は日本人のみのクラスであり、かつ英語力を向上させるためのクラスなので、クラスのレベルとしては全員同じようなレベルでした。そのため、英語ができないことに引け目を感じることなく積極的にクラスに参加できました。また、一週間に一回発音のクラスがあり、混同しやすい発音や正しい発音について学びました。現地の方が流暢に話すような喋り方もこのクラスで学ぶことができました。

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2022年度参加》

私は語学力に自信がありませんでしたが現地の方とコミュニケーションを取りたいという気持ちが多く、積極的に話かけることができました。恥ずかしい気持ちもありましたが周りの環境に恵まれていたので、間違ってもそれを訂正してくれることがありコミュニケーションを取りながら英語を学ぶことが沢山ありました。また、何事も自分から前のめりに行くことで現地の方とコミュニケーションはもちろん良好な関係を築けるので積極的に行動する重要性を学びました。

私のクラスを担当してくださった先生の授業で印象的だったことが二つあります。一つ目は、最初の授業で「このクラスは間違いを沢山していいから恥ずかしがらないで」と言ったださり、とても安心しました。二つ目は、先生は授業内で難しい単語、発音、重要なことを言う際にマスクを外し口の動きを強調するように話してくれます。それがあつて少理解が難しくても相手が何を言おうとしているのか読み取ることが出来ますし、私が発音するときに参考になる仕草だったと思いました。



※写真は2022年度参加者提供

《2年 人間関係学科 2019年度参加》

授業では、カナダの食事や動物、通貨、交通、有名な場所などに関するリスニングを聞き問題に答えたり、ペアでプレゼンテーションをしたりしました。身近な話題だったので、とても興味深く学ぶのが楽しかったです。また、カナダと日本でそれらについて比較してみたりもして新たな発見がありました。リスニングの英語のスピードが早くて慣れるまでは時間がかかりましたが、毎日行っていたのでリスニング力は向上したと思います。週一回、発音のクラスもあり、改めて正しい発音の仕方を学ぶことができました。午後のアクティビティでは、様々な所に行きました。テレビ局に行って番

組を制作したり、街中に行って近くにいる人にインタビューをしたりしました。旅行の時には体験できないような貴重な体験をたくさんすることができました。アクティビティの最中にモニターさんやクラスの友達と話せて、さらに仲良くなることができ、たくさんの思い出も作る事ができました。

《2年 心理学科 2019年度参加》

モントリオールの人とはとても親切で、道を尋ねたらその場所まで一緒に来てくれたり、観光をしていたら話しかけてくれたりしたことが印象的でした。話す中で、日本のことについて聞かれることが多く、答えられないことがあったので、自分が住んでいる国のことくらいは知っておかなければならないなと思いました。自分から積極的に英語を話すことで初めて知ることや得ることが多く、コミュニケーションを取るといことは本当に大切だと実感しました。また、駅でオーケストラが演奏していたり、街中で楽器を弾いている人や歌っている人がたくさんいたりしたのも印象的です。

モントリオールは、標識やカフェ・レストランのメニューの表記がフランス語のことが多く、少し戸惑いました。英語とフランス語のバイリンガルの人が多いですが、なかにはフランス語しか話せない人もいたので、コミュニケーションが難しかった場面もありましたが、フランス語に触れる良い機会にもなりました。



※写真は 2019 年度参加者提供

ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）

《2年 英語文化コミュニケーション学科 2021年度参加（オンライン）》

今回オンライン短期留学に参加して、今まで知らなかったカナダの文化や歴史を学べたことはもちろん、たとえ文法が間違っていたとしても、英語で物事を伝えることがいかに大切であるかを深く実感することができました。ディスカッションの際に自分から話すように心がけたおかげで、スピーキング能力は大きく向上したと思います。

《2年 国際交流学科異文化コミュニケーションコース 2021年度参加（オンライン）》

各クラスに1名 Cultural Assistant(現地学生)が配属されており、オンライン上で意見を交わしたりリアルタイムで一緒にディスカッションしたりする機会が設けられていました。私たちの文化や考え方に大変関心を持ってきて様々な質問をしてくれたため、場を和ませてくれていたと感じます。また、毎日、様々な Workshop が開催されていたため複数の現地学生と交流する機会を得ることができました。

《2年 国際交流学科 2019年度参加》

授業は、週ごとにテーマが異なり座学だけではなく校内でインタビューにまわったり、街に出かけたりと充実していて毎日学校に通うのがとても楽しかったです。ジェンダーやスポーツなど身近な話題を様々な国の視点から意見を聞くことが出来ました。また、グローバルシティズンというテーマを通じてカナダの先住民族の文化にも詳しくなることができました。

《1年 基礎課程 2019年度参加》

私はUBCのアクティビティでシアトルへの週末旅行に参加しました。Cultural assistantの学生とプライベートな会話ができるのはアクティビティのみであったため、積極的に話しかけるようにしました。また、学外であっても学内のアクティビティであるため、English onlyのポリシーが徹底されていたことが良かったです。そのほかに、UBCはダウンタウンまで40分という非常に立地の良い場所にあり、放課後には友達と気軽にショッピングやカフェを楽しむことができました。また、週末にビクトリアを訪れたことも良い経験になりました。英語のサイトを見ながらホテルやフェリーの予約をするのは初めてでしたが、大学生らしい経験ができました。



(※写真はすべて 2019 年度参加者提供)